



TOHOKU
UNIVERSITY

2026

東北大学教育学部
東北大学大学院教育学研究科
Graduate School of Education/Faculty of Education

人の間にあるもの。

それが教育。

教育学研究科

生涯教育科学コース

教育情報アセスメントコース

教育政策科学コース

教育心理学コース

グローバル共生教育論コース

臨床心理学コース



目次

CONTENTS

数字で見る東北教育

03 数字で見る東北教育

教育学研究科の紹介

- 04 生涯教育科学コース
教育政策科学コース
グローバル共生教育論コース
- 05 教育情報アセスメントコース
教育心理学コース
臨床心理学コース

教育学部の特徴と学習の流れ

- 06 教育学コース
教育心理学コース

東北大学教育学部・ 大学院教育学研究科に決めた理由

- 07 東北大学教育学部・
大学院教育学研究科に決めた理由

学生インタビュー

- 08 学生インタビュー

施設紹介

- 10 図書室
コンピュータ実習室
リフレッシュルーム
実験室

データで見る教育学部・教育学研究科

- 11 教育学部・教育学研究科の在学者数
教育学部・教育学研究科でとれる資格・受験資格
学部卒業生・大学院（修士/博士）修士生の進路

取り組み

- 12 心理支援センター
臨床心理相談室
発達・学習心理相談室
災害心理支援室
遠隔支援チーム
- 13 先端教育研究実践センター
国際シンポジウム・提携校
AEL COURSE

学生支援制度

- 14 各種奨学金制度
TA・RA制度
日本学術振興会特別研究員制度
博士研究員制度
東北大学学際高等研究教育院制度
長期履修制度

論文・研究紹介

- 15 論文・研究紹介

東北大学教育学部Q&A

- 16 東北大学教育学部Q&A

教育という営みを学際的に探究し よりよい未来の教育をデザインする

小嶋 秀樹

KOZIMA HIDEKI

東北大学
大学院教育学研究科長・教育学部長



WEB サイトで
学部長挨拶を見る



もしも教育がなかったら、私たちの世界はどうなっていたでしょうか。バスも電車もなく、インターネット也没有。誰も文字を読めず、お金の計算もできません。いや、本もお金も存在すらしなかったでしょう。

教育とは、人類にしかみられない営みです。また、人類であれば、ジャングルの奥深くや極北の地でも、大人が子どもを教え、子どもは大人から教わろうとします。そのような積極的に教える・教わるという活動によって、人類は個々人の発明・発見を共有し、世代を超えて継承することで、豊かで多様な文化をつくりあげてきました。

そのような教育という営みが、どのような歴史をもって発展し、どのような制度によって動いているのか。貧困や紛争によってどのような影響を受けるのか、どう対処すればよいのか。また、教える・教わるという活動を支える人の心理はどのような仕組みをもっているのか、発達障害などでそれがうまく働かない場合はどうなるのか、どうすればよいのか。心を病んでしまった人にはどのようなサポートができるのか。生成AIによって教育はどう変わるのか、変わるべきなのか。

これらの課題を、脳科学・情報科学を含めた学際的なアプローチで解き明かし、そこから未来の教育をつくりあげていく、それが東北大学教育学部のミッションです。あなたもこの知的冒険にご一緒しませんか？

数字で見る TOHOKU EDUCATION 東北教育 BY THE NUMBERS



数字で見る東北教育について
詳しくはこちら



東北大学について

About TOHOKU University



東北大学設立年

1907 年

(東北帝国大学創立)



THE日本大学ランキング

第**1**位

※「Times Higher Education (THEイギリスの高等教育専門誌)」
によるTHE日本大学ランキング2025



附属図書館蔵書数

本館(教育学部と同じキャンパス)の蔵書数

図書 **2,884,912** 冊

雑誌 **43,713** 種類

※「東北大学概要」掲載データ(2023.3.31現在)



敷地面積

約 **2,200** 万 m²

※「東北大学概要」掲載データ (2023.7.1現在で所有:21,904,883m²)

学部について

About Graduate School of Education



教育学部設置

1949 年

教育学科、学校教育学科、特殊教育学科、2年制教員養成課程



教育学部学生数

304 名 2025.5.1現在

男女比 **44:56**



教育学部1学年学生数

75 名 2025年度学部入学者数

男女比 **43:57**



教育学部教員数

39 名 2025年度

教員と学生の比率 **7.79**



学術交流協定締結校

21 校

教育学研究科の紹介

About Research Departments

生涯教育科学コース

Sciences of Lifelong Education Course

人間の誕生から死にいたるまでのプロセスを研究する手法を学ぶ

持続可能で公正な社会の形成に資するため、生涯にわたる人間形成と教育のあり方について、原理的、巨視的、社会的な視点から深く理解し、知識基盤社会、生涯学習社会に必要な洞察力、企画力、実践力を有する人材を育成することを目的としています。具体的には、教育を「人間形成」のプロセスとして広くとらえ直し、学校という制度化された学びの場のプロセスだけでなく、人間の誕生から死にいたるまでのプロセスを、哲学、歴史、社会学、文化人類学の視点から研究する手法を学ぶことができます。

Faculty Members

甲斐 健人
教授・スポーツ文化論

李 仁子
准教授・人間形成論

石井山 竜平
准教授・社会教育学

澤田 哲生
准教授・人間形成論

鷲谷 洋輔
准教授・スポーツ文化論

教育政策科学コース

Education Policy and Social Analysis Course

政治・経済・社会が複雑に絡み合う課題の解決能力を育成

財政危機や少子高齢化とともに民族・文化の多様化が進む国々では、効率的な資源配分だけでなく異質かつ多様な人びとの公正な処遇という観点からも教育政策を考えていく必要があります。本コースでは、教育社会学、教育行政学及び比較教育学の学問領域を「教育政策科学」という共通の枠組みのもとに統合した教育プログラムを提供することで、上記のような政治・経済・社会が複雑に絡み合う課題の解決に求められる、幅広い視野からの課題発見能力、高度な分析能力及び批判的思考力をバランスよく備えた人材を育成していきます。

Faculty Members

青木 栄一
教授・教育行政学

島 一則
教授・教育社会学

福田 亘孝
教授・教育社会学

井本 佳宏
准教授・比較教育学

後藤 武俊
准教授・教育行政学

グローバル共生教育論コース

Global Education Course

グローバル化する社会における新しい教育の実践と研究ができる人材を育成

グローバル化する世界における複合的で多様な課題に対応し、持続可能な社会を構築するための新しい教育のあり方への変容が求められています。本コースでは、学校教育、成人教育、国際教育開発、多文化教育という学際的な観点から、知識伝達型のこれまでの教育を問い直し、価値観の異なる人々と協働しつつ「正解のない」新たな状況に当事者意識を持ち対応できる教育や実践を探究します。本コースでの学びを通し、グローバル化する社会における教育の課題を、ローカルな現場にも立脚しながら重層的に把握し、多様性の尊重、公正、社会正義といった現代社会に求められている価値観や倫理観に基づき分析し、実際的な問題解決に貢献できる専門能力を有する研究者と実践者を育成します。

Faculty Members

谷口 和也
准教授・学校教育論

松本 大
准教授・成人教育論

劉 靖
准教授・国際教育開発論

末松 和子
教授・多文化教育論
(協力講座教員)

渡部 由紀
教授・多文化教育論
(協力講座教員)

高松 美能
准教授・多文化教育論
(協力講座教員)

ナカサト ローレン
助教・国際教育開発論



WEB サイトで
教育学研究科コースを見る



教育情報アセスメントコース

Educational Information and Innovative Assessment Course

学びのイノベーションを視野に入れアセスメントの基礎を固める

現代の教育・学習環境のデザインにあたっては、すべての人びとに開かれた学習機会の提供という観点からInformation and Communication Technology (ICT) のより発展的かつ有効な導入が求められています。そこでは、ICTを駆使した教育プログラムの開発だけでなく、そのプロセスや効果の検証・アセスメントが重要になってきます。本コースでは、日本社会の成熟化、少子化、価値の多元化が進む知識基盤時代の教育にふさわしい、学びのイノベーションを視野に入れつつ、アセスメントの基礎を固め、客観的なデータ・根拠にもとづいて教育を測定し評価するために必要な専門的能力・スキル・知識を修得した人材を育成していきます。

Faculty Members

熊井 正之
教授・教育情報デザイン論

小嶋 秀樹
教授・教育情報デザイン論

佐藤 克美
准教授・教育情報デザイン論

松林 優一郎
准教授・教育評価測定論

西塚 孝平
講師・教育評価測定論

宮本 友弘
教授・教育情報デザイン論
(協力講座教員)

熊谷 龍一
教授・教育評価測定論

久保 沙織
准教授・教育評価測定論

中島 平
准教授・教育情報デザイン論

伊藤 文人
講師・教育情報デザイン論

倉元 直樹
教授・教育情報デザイン論
(協力講座教員)

教育心理学コース

Educational Psychology Course

教授・学習や人間発達のしくみとその支援ニーズを心理学的観点でとらえる

教育心理学における「教育」とは、広く、人と人がかかわる場面の問題としてとらえることができます。例えば、分数の掛け算につまずく小学生にどのように教えたらよいのか、なぜ中学生の非行発生率は他の世代より高いのか、自閉スペクトラム症などのコミュニケーションに困難を抱える子どもたちをどのように支援していけばよいのか、などです。本コースでは、こうした教授・学習や人間発達のしくみ、ならびに発達過程における障害や支援ニーズに対して、心理学的観点から多面的・多角的にとらえ、そのメカニズムを明らかにすることで、その理論および実際の心理的支援や教育的支援を実証的手法により開発できる人材、ならびに心理専門職を養成する人材を育成します。

Faculty Members

神谷 哲司
教授・発達心理学

工藤 与志文
教授・教授学習心理学

長谷川 真里
教授・発達心理学

野口 和人
教授・発達障害学

佐藤 誠子
准教授・教授学習心理学

横田 晋務
准教授・発達障害学

臨床心理学コース

Clinical Psychology Course

心理専門職として 広く社会に貢献できる人材を養成

子どもや成人をめぐる心理社会的問題を見ると、学校における不登校やいじめの問題、度重なる災害による問題、虐待やハラスメントなど家庭や組織での問題など様々な領域で、その深刻さを増しつつあります。本コースでは、様々な領域において心理的問題を擁する方々やその家族に対する援助についての新たな知見を見出す研究者を養成し、また、相談や援助の業務に従事する公認心理師や臨床心理士の受験資格を取得し、心理専門職として、広く社会に貢献できる人材を養成します。

Faculty Members

若島 孔文
教授・臨床心理学
・家族心理学

本多 奈美
准教授・臨床心理学
・精神医学

吉田 沙蘭
准教授・臨床心理学
・医療心理学

坂本 一真
助教・臨床心理学
・青年心理学

安保 英勇
准教授・臨床心理学
・コミュニティ心理学

前田 駿太
准教授・臨床心理学
・生心理学

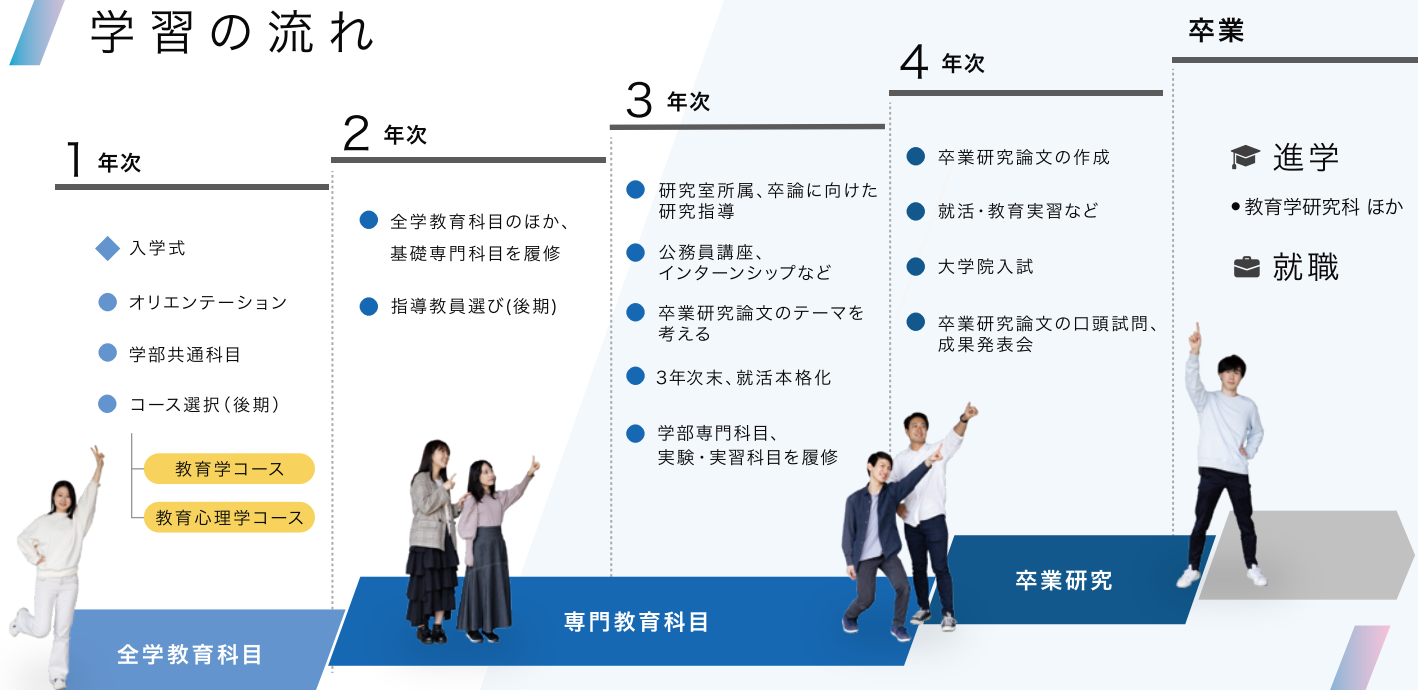
シュレンベル レナ
助教・臨床心理学
・コミュニティ心理学



教育学部の特徴

東北大学教育学部では、4年間を通じた、柔軟で一貫性のある教育プログラムを実施しています。1年次においては、全学教育科目を中心としながら、幅広い教養の形成を行います。2年次以降、専門科目の授業を受講していきます。その際、「教育学コース」と「教育心理学コース」のいずれかを選択することとなります。2年次の後期の間に指導教員を決定し、3年次から研究指導が開始されます。これらをふまえて、4年次には卒業研究を行います。

学習の流れ



1年次後期 コース選択



教育学コース

Studies of Education

教育の思想・歴史・組織・制度や、教育の内容・方法・組織(学びのイノベーション含む)と社会諸制度との関わりなど、多面的な教育の諸現象について、教育学および教育に関連する諸学問の内容を学び、自ら課題を設定して研究に取り組みます。文献講読・フィールド調査・実験・社会調査などを行い、教育学の研究方法を修得します。そして、その成果を卒業研究としてまとめます。



教育心理学コース

Educational Psychology

教育や発達・適応に関する諸現象について、人間の行動・心理的状态に関わる側面から、心理学的な概念や理論を学び、教育や発達・適応上の諸問題を解明するために自ら課題を設定して研究に取り組みます。文献講読・行動観察・実験・質問紙調査などを行い、ICTリテラシーなどを学びます。そして、その成果を卒業研究としてまとめます。また公認心理師のためのカリキュラムも提供されています。

先輩が教える
東北大学教育学部大学院教育学研究科の

＼ここが良い！／

自分にあった**入試内容**

AO入試や科目選択の自由度が高くて、自分に合った形で受験できました。自分らしさを活かせる入試方式が良かったです！

魅力的な**教育内容**

教育学そのものを学べるのが魅力！心理学やICT、生涯学習など幅広い分野から自分の興味に合わせて学べます。

充実した**研究環境**

少人数制で教員との距離が近く、研究に集中しやすい環境。最新の設備もあって、自分のやりたい研究がしっかりできる！

高い**知名度**

東北大学は、国内外で高い知名度を誇る国立大学です。社会的な信頼度が高い！

国際色豊かな環境

留学制度や国際的な研究テーマが充実していて、グローバルな視点を養えるのが魅力！世界の教育課題にも触れられます。

進学や就職に有利

国立大学の中でも評価が高くて、進学にも就職にも有利。教育分野だけでなく、心理学や企業就職にも強くて安心です！

2025年東北大学
教育学部・大学院教育学研究科
学生対象のアンケート結果より集計

最大3回の受験機会を提供。多様な評価軸で、意欲ある学生を受け入れます。

3つの選抜方式で挑む
定員70名の入学枠



1 AOⅡ期
(定員14名)

2 AOⅢ期
(定員7名)

3 一般入試
(定員49名)



小滝 真悠

KOTAKI MAYU

教育学部教育学コース4年
静岡県立富士高等学校 出身

学ぶ意欲を高めてくれる学習環境。

仲間との出会いで

教育への関心がさらに高まった。

小滝さんのタイムスケジュール Time Schedule

2年生のある日

- 7:30 起床
- 8:50 1限「展開中国語Ⅰ」
- 10:30 2限「教育学概論」
- 12:00 学食で友人とランチ
- 13:00 3限「西洋史概論」
- 15:15 学生広報スタッフのアルバイト
- 18:00 報道部の部会
- 21:05 友人とレイトショーで映画鑑賞
- 23:20 帰宅
- 25:00 就寝

教員の現場を知るため、
教職課程の講義も履修しています



「東北大学新聞」を発行する報道部の
ミーティングで、記事の進捗状況
などを打ち合わせます

3年生のある日

- 9:00 起床
- 10:30 2限「学習心理学講義」
- 12:00 学食でランチ
- 13:00 3限「教育政策科学演習Ⅳ」
- 15:15 学生広報スタッフのアルバイト
- 17:50 就職活動で省庁の業務説明会に参加
- 20:30 塾のアルバイト
- 22:30 帰宅
- 24:00 就寝

3年次は教育学コースと教育心理学
コースに分かれ、より専門的な講義で
学ぶようになります

レポート課題は学内
の自習室を利用し、
空いた時間に集中し
て取り組みます



01 東北大学教育学部を志望した理由

—— 教員の働き方を学ぶために

私は幼い頃から、学校の教員として働く両親の姿を見て育ちました。教員という仕事に憧れる一方で、毎日忙しそうに働いている様子から、「教員の働き方について学べないか」と考え始めたことが、教育学に関心を持ったきっかけです。東北大学は母校からの進学者が多く、教育水準の高さや学びに集中しやすい環境だと先生から勧められたこともあり、東北大学で教育学を学ぼうと決めました。



02 東北大学教育学部の魅力

—— 教育を広い視点で学べる環境

東北大学の魅力は、多様な国籍・出身地・文化や価値観を持つ人と出会えることです。私は現在「ユニバーシティ・ハウス」という混住寮に入っており、留学生や他学部・大学院の方と8人1ユニットで暮らしています。異なる背景を持つ人との交流は、自分の視野を広げる貴重な経験です。

教育学部の良さは、さまざまな視点から教育について語り合える仲間がいることです。不登校や英語教育に関心がある人、学習心理学のように「どう教えると生徒の理解が深まるか」を研究する人など、幅広い切り口で教育を捉えている人がいて、教育学への関心がさらに高まりました。

—— 学習意欲を高めてくれる充実した環境

学習環境が整っているのも大きな魅力です。東北大学附属図書館は自習スペースが充実していて、気分に合わせて席を選ぶことができます。蔵書も豊富で、レポートに必要な資料もすぐに手に入ります。学部内にも自習室やリフレッシュルームがあり、とても学びやすい環境です。

また、大学院生との関わりが多いのも特徴の一つです。講義によっては、TA（ティーチング・アシスタント）として参加している院生の方と関わる機会があり、より専門的な研究に取り組まれている姿は刺激になります。

03 将来の目標

—— 法を整備する立場から教育現場を支援したい

卒業後の目標は、国家公務員として教員の労働環境などを整備する仕事に就くことです。国家試験に向けて、東北大学生協同組合の講座などを活用しながら勉強を進めています。また、所属している教育行政学ゼミの課題に取り組むことが試験対策につながっているので、実践的に学べる環境に感謝しています。教員不足など教育現場には多くの課題がありますが、教育学部での学びを生かして、法整備の立場から現場を支援できる存在になりたいです。





図書室 Library



研究棟6階に位置する教育学部の図書室は、フロアの半分ほどを占める広さを有しており、専門スタッフ2名が配置されています。閲覧用の大きなテーブルと椅子、キャレル(個人学習用の閲覧ブース)、コピー機、図書検索用のパソコンなどが備えられています。教育関連の専門書、雑誌、大学紀要など1万冊近くの蔵書が、開架式の書棚と12連の電動集密書架に所蔵されており、学生や教職員の教育・研究に大きな役割を果たしています。



コンピュータ実習室 Computer Lab



コンピュータ実習室には、コンピュータ30台とプリンタ3台が設置されていて、各コンピュータにはワープロや表計算などの基本的なソフトをはじめ、4種類のデータ解析ソフトがインストールされています。室内にはソフトの使用法やデータ解析を学ぶためのテキストも備え付けられていて、授業や講習会などに利用されるとともに、学生が研究や学習をすすめるために活用しています。



リフレッシュルーム Refresh Rooms



学生の自己学習を促す、本研究科独自の施設です。各フロアに1箇所ずつ設置され、学生の休息や語らいの場であるとともに、自主ゼミや研究会などに使える施設となっています。眺望の良い明るい部屋には、ソファコーナーのほかに、ミーティングテーブル、プレゼンテーション用の大型モニター、ホワイトボードなどが設置され、学生はいつでも自由に使用できるようになっています。



実験室 Laboratories

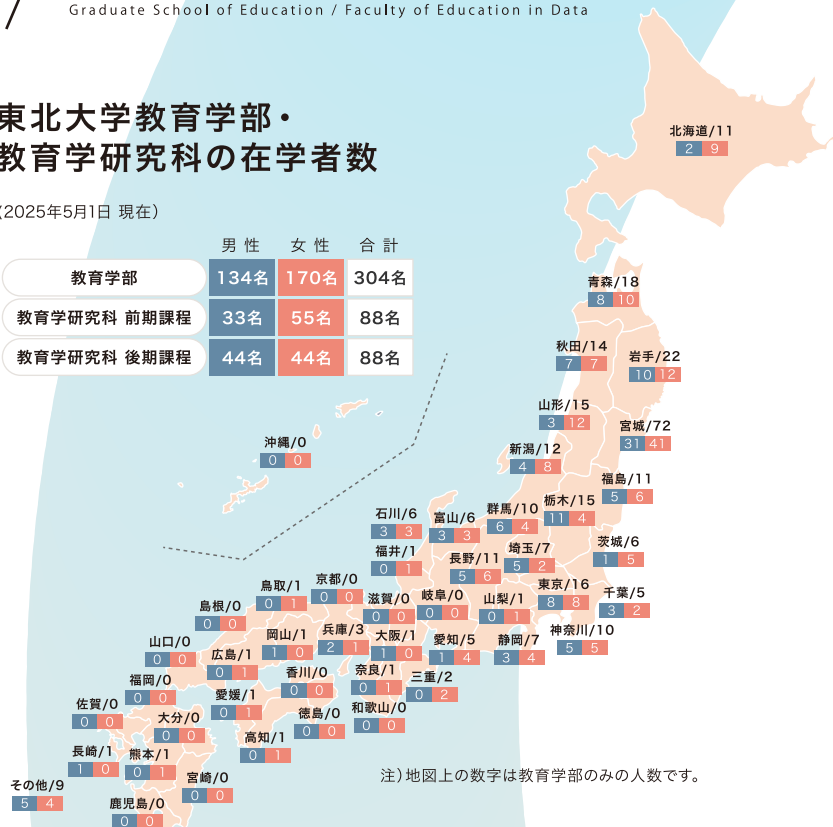


学習(人間が学び理解するメカニズム)に関する各種実験、認知(種々の感覚に基づく人間の情報処理)に関する各種実験、脳波等の生理心理学検査と聴力測定、各種の個別心理検査、集団間の相互作用の様子についての行動観察などを進めるための施設です。

また、これらの観察記録や分析のためのシステムも整っています。

(2025年5月1日 現在)

	男性	女性	合計
教育学部	134名	170名	304名
教育学研究科 前期課程	33名	55名	88名
教育学研究科 後期課程	44名	44名	88名

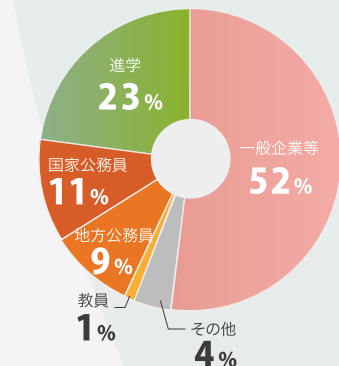


- **教員免許状(一種)**
中学校(社会)、高等学校(公民)
※ただし他学部の特修との組み合わせで他の教科の免許状を取得することができる
- **社会教育主事**
※任用資格、社会教育士(称号)
- **学芸員**
※文学部の科目を履修する必要あり
- **公認心理師**
※一部、文学部の科目を履修する必要あり
※詳細は最終ページ「東北大学教育学部Q&A」のQ3を参照のこと

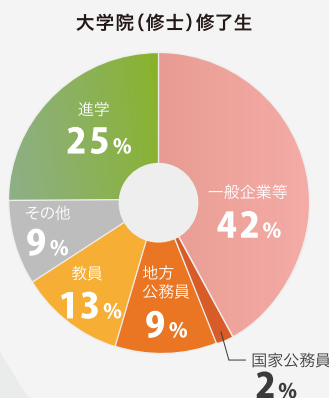
- 公認心理師
- 臨床心理士
- 臨床発達心理士

※詳細は最終ページ「東北大学教育学部Q&A」のQ3を参照のこと

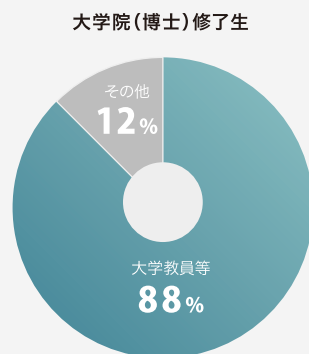
大学院（修士/博士）修了生の進路



■ **大学院進学(約23%)**
東北大学大学院教育学研究科、
東京大学大学院教育学研究科



■ **大学院進学(約25%)**
東北大学大学院教育学研究科、
東京大学大学院教育学研究科



■ **大学教員等**(約88%)
東北大学、東京理科大学、松本大学、
郡山女子大学 他



WEB サイトで
学部卒業生の進路を見る



WEB サイトで
大学院(修士 / 博士)修了生の
進路を見る





研究科における心理学の基礎的研究や臨床研究の成果を地域社会に還元し、個人、家族、地域あるいは災害被災者に対する相談援助を行うとともに、公認心理師・臨床心理士養成のための実践的教育訓練を行うことを目的としています。センターには、臨床心理相談室、災害心理支援室、発達・学習心理相談室が置かれており、2020年度末に終了した震災子ども支援室“S-チル”の事業内容を、緊急支援・被災者支援・震災・防災心理教育として災害心理支援室で継続しています。また、既存の臨床心理相談室の支援体制を発展させ、さらに多様な専門性(発達・学習相談、遠隔支援など)を総合的に活用できる支援体制を構築しました。

臨床心理相談室

Clinical Psychology Counseling Room

子どもの不登校やいじめ問題をはじめ、職場や生活でのストレスや葛藤を持つ人々やその家族に対して、心理査定を含めた臨床心理面接を実施し、地域社会に貢献するとともに、臨床心理士(臨床心理士養成指定大学院1種)および公認心理師を養成するための内部実習機関です。構成員は、臨床心理学コース教員および大学院生を中心としています。

発達・学習心理相談室

Developmental and Learning Psychology Consultation Room

発達の問題や気がかり、学習のつまずきなど、乳幼児期から青年期に至るまでの子どもとその保護者への対応の仕方に苦慮する教育・福祉等諸領域の専門家に対して、より専門的なコンサルテーションを実施し、子どもとその保護者に対して求められる発達・学習支援を行います。構成員は、教育心理学コース教員中心としています。

災害心理支援室

Psychosocial Support Room for Disaster Victims

震災子ども支援室から資料および連携機関を引き継ぎ、(1)災害遺族支援・災害里親支援、(2)緊急支援・被災者支援、(3)災害心理教育を行っていきます。また、災害地域が僻地の場合、遠隔での支援体制を整え、遠隔支援システムを導入します。構成員は、教育学研究科の教員を中心としています。

遠隔支援チーム

Remote Support Team

引きこもり者、介護者家族、遠隔地在住者等遠隔で支援を求める方への幅広いご相談に応じています。

STAFF スタッフ

若島 孔文 センター長・災害心理支援室室長・教授
安保 英勇 副センター長・臨床心理相談室室長・准教授
横田 晋務 発達・学習心理相談室室長・准教授

STAFF スタッフ

安保 英勇 室長・准教授
前田 駿太 副室長・准教授
若島 孔文 教授
本多 奈美 准教授
吉田 沙蘭 准教授
シュレンベル レナ 助教
坂本 一真 助教

STAFF スタッフ

横田 晋務 室長・准教授
神谷 哲司 教授
工藤 与志文 教授
野口 和人 教授
長谷川 真里 教授
佐藤 誠子 准教授

STAFF スタッフ

若島 孔文 室長・教授
青木 栄一 教授
李 仁子 准教授





先端教育研究実践センターは、社会的に重要な教育課題について、より機動的に対応するとともに、プロジェクト等への参加を通して学生が研究力・実践力を高めることのできる組織です。「重点研究プロジェクト部門」「地域教育支援部門」「研究・教育支援部門」「国際交流支援室」の各組織が研究や教育をめぐる取り組みを進めています。

STAFF スタッフ

甲斐 健人 センター長・教授 劉 靖 副センター長・准教授
大河 雄一 センター員・助教 閻 婉新 センター員・助教
ダグワドルジ アディアニャム センター員・助教

国際シンポジウム・提携校

International Symposium・Affiliated School



グローバルな研究活動を行う東北大学は、海外の著名大学の研究者との共同研究交流を重視しています。そのような交流を推進するために、東北大学は、2025年4月現在で世界242大学や機関と大学レベルでの交流協定を締結しており、さらに東北大学の単数もしくは複数の部局（研究科や研究所）が独自に470か所の海外の大学や機関と部局間協定を結んでいます。教育学部（教育学研究科）については、以下の21の大学・機関と部局間協定を結び、活発な研究交流や学生の相互派遣を行っています。



国際シンポジウム・提携校について
詳しくはこちら



大学・機関と部局間協定先一覧

- ロンドン大学インスティテュート・オブ・エデュケーション
- 明知大学校社会教育大学院
- ヨーク大学教育学部
- 台東大学師範学院
- ウソン大学校保健福祉学部
- 南京師範大学教育科学学院
- 国立台湾師範大学教育学院
- 高麗大学校師範大学
- 国立政治大学教育学院
- 杭州師範大学教育科学学院
- 北京師範大学教育学部
- 南京師範大学心理学院
- 華東師範大学教育学部
- 華東師範大学心理与認知科学学院
- ソウル大学校師範大学
- 華東師範大学教育学部
- 国立インドネシア教育大学教育学部・大学院研究科
- UNESCO バンコク事務所
- 天津大学教育学院
- UNESCO 北京東アジア地域事務所

AEL COURSE

Asia Education Leader Course

AELは「Asia Education Leader」の略で、アジア、特に東アジアにおける教育課題に対応できる国際的視野をもった指導的人材の育成を目指す国際共同教育プログラムです。



AEL COURSE について
詳しくはこちら





各種奨学金制度

経済的な応援が心と暮らしをいきいきと豊かにします。

● 奨学金制度

優秀な学生のために、日本学生支援機構による奨学金（第一種・無利子、第二種・有利子）の貸与があるほか、令和2年度からは修学支援新制度により学部学生を対象とした給付型奨学金が始まりました。さらに令和7年度からは、多子世帯への支援拡充が始まりました。

その他、地方公共団体・民間奨学金団体による奨学金の貸与や給付の制度があります。経済面のしっかりした支援体制で、研究者養成を助けます。どの奨学金も学業成績の優秀な学生、そして経済的理由で修学困難な学生に資格が与えられます。学生生活を円滑に送るため、大切なライフプランニングに役立てることができま

● 授業料免除制度

経済的理由により授業料の納付が著しく困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、その他、突発的災害等やむを得ない事情があると認められた場合には、授業料の全額、3分の2の額、半額、3分の1の額又は4分の1の額を免除する制度があります。

TA・RA制度

未来の教育指導者、若手研究者をしっかりとサポートします。

● TA（ティーチング・アシスタント）

TA制度は、教育学部・博士課程前期2年の課程の授業をアシストするシステムです。成績優秀な大学院生が担当し、手当（時間給）が支給されます。学生を教育指導できる実践トレーニングの経験としてのメリットに加え、この体験は現実世界と理論とを融合させる格好の機会にもなります。

● RA（リサーチ・アシスタント）

RA制度は、博士課程の大学院生が研究科の研究プロジェクトに参画し、研究に必要な補助を行うシステムです。資格は博士後期3年の課程に在籍する優秀な学生に与えられ、手当（時間給）が支給されます。教員とマンツーマンで、研究の進め方や理論構築のノウハウなどを吸収できます。大学側の研究支援体制を強化するとともに、若手研究者の養成をサポートする充実した内容となっています。

日本学術振興会特別研究員制度

創造性豊かな研究者養成のために研究奨励金を支給します。

大学院博士課程在学者及び修了者などで優れた研究能力を備え、大学その他の研究機関で研究することを希望する研究者を「特別研究員」に採用し、研究奨励金を支給する制度です。

特別研究員になると、主体的に研究課題や研究の場などを選びながら、研究に専念する機会を持つことができます。わが国の学術研究の将来を担う、創造性に富む研究者の養成を目的としています。

博士研究員制度

就職前のポスドクの研究環境を保障します。

博士研究員は、教育学研究科又は教育情報学教育部の博士課程3年の課程を修了した者を対象に研究者としての地位を保障する制度です。博士研究員は、授業料を払わずに本学の施設・設備の使用、指導教員による指導を受けることができ、さらに本学の研究者としてさまざまな研究費に独自に応募することができます。

東北大学学際高等研究教育院制度

新領域を創造する若手研究者を支援します。

東北大学学際高等研究教育院とは、既存の研究科・教育部の枠にとらわれず、新しいタイプの異分野融合からなる新領域の学際的研究を創造し、世界トップレベルの研究者を目指す若手研究者養成のための、東北大学独自の支援組織です。奨学金支給、論文投稿諸費用や学会、国際会議出席費用等の各種支援を受けられるほか、研究計画に見合った研究費や研究環境又は国際インターンシップのための助成、ポスドクの雇用等の支援事業を行っています。

また、教育学研究科に所属しながら「修士研究教育院生」「博士研究教育院生」に採用されることで、奨学金や研究費の助成が受けられます。

長期履修制度

個々の事情にもとづいた修業年限の設定が可能です。

長期履修制度は、職業に従事している等の個人的事情により修学に専念できない大学院生を対象に、標準修業年限（前期課程2年・後期課程3年）を超えて在学することを認めるシステムです。授業料も標準修業年限分の納入額のみとなります。この制度は、より多くの人びとに大学院教育の機会を提供することがねらいです。



学生支援制度について
詳しくはこちら



教育学研究科

令和6年度 博士論文

- 脳性麻痺児のコミュニケーション支援に関する研究
- A New Approach to Support Self-regulated English Learning for Visually Impaired University Students through "Content-focused Accessible E-learning Material":Based on Student-centered Feedback
- プログラミング学習の初学者を対象とした教育指導方法の検討
- 聾学校における聴覚障害教員の包摂的な職場環境を促進する要因の実証的研究 ―聴覚障害教員と聴教員との同僚性に着目して―
- 柳田国男話し言葉教育論の研究 ―我が国のコミュニケーション教育論の源流―
- 芦田恵之助の読み方教授における指導原理に関する研究 ―自己内対話の分析視点から捉える文学教育への視座―
- 理系研究室の持続的発展に向けた教育学的研究
- てんかん患者における心理的問題の援助要請プロセスに関する研究

令和6年度 修士論文(抜粋)

- 南相馬市における原発被災後のコミュニティ政策と社会教育行政
- 日本の大事故遺族についての人類的研究 ―日航機墜落事故遺族と「8・12連絡会」の活動に着目して―
- 高等学校における知的障害生徒インクルージョンの特質と可能性 ―参加の視点による先進事例の比較分析から―
- 新制度下の首長・教育委員会関係の変容 ―総合教育会議の運用に焦点を当てて―
- 起業学習がつくるコモンによる住民のエンパワメント ―インドネシアのCLCを事例として―
- 日本における生活困窮世帯の子どもへの学習・生活支援団体と学校の連携 ―NPO団体の事例研究から―
- ボードゲームが理科の苦手意識に及ぼす影響 ―「水溶液の性質」を題材として―
- コミュニティ・スクールの中核をなす学校運営協議会の形骸化の要因分析
- 言葉を話すことが難しい重度の自閉スペクトラム症児者の意思表出に関する研究 ―保護者の経験に焦点を当てて―
- 休憩が労働者のストレスと感情に及ぼす影響の研究 ―休憩時間の長さと活動内容に着目して―
- 自己臭関係付け症症状を有する者の専門機関利用に関する実態調査
- 二重拘束的体験がメンタライゼーションを介して社会的適応に与える影響



博士論文・修士論文について
詳しくはこちら



教育学部

令和6年度 卒業研究(抜粋)

- 子どものモバイル端末と自己制御の関係
- 大阪府における私立高等学校授業料無償化の政策過程
- 発達障害及びその傾向のある学生の就職活動における障害学生支援部署の支援の現状と課題
- 困難を抱える若者の就労への移行と支援者 ―特定非営利活動法人 With 優の事例から―
- 大学生においてロールモデルの人数が キャリア・アダプタビリティに与える影響 ―ロールモデルの機能に着目して―
- 飼い主の愛着スタイルとネグレクト傾向の関連
- 音・香り環境の変化が集中力に与える影響について
- 義務教育課程における金融教育 ―学習指導要領の変遷と学校実践―
- スクールカウンセラー配置格差の実態把握
- ファシリテーターの知と熟達化
- 広域通信制高校生徒の学習機会とその規定要因分析 ―通信教育連携協力施設に注目して―
- 小学生の保護者の合理的配慮に関する認識
- 中学生のスピーキング能力向上を目的とした AI 英会話アプリの比較
- 留学生のキャリア形成における地方のマッチング支援事業の役割 ―宮城県の実例に着目して―
- プレイバックシアターによる自己相対化と他者理解 ―石野論文の方法的限界の検討―
- 家族内におけるコミュニケーションと青年の自己効力感の関連 ―直接的コミュニケーション・間接的コミュニケーションの観点から―
- 大学生における自己卑下呈示の選択動機が抑うつに及ぼす影響
- 生成 AI をプランナーとして活用する方法の有効性について ―セルフエスノグラフィーを活用した研究―
- 人間は「美しい」顔と「好ましい」顔をどう見分けているのか？ ―AI 生成顔画像に対する評価の統計的分析と自由記述分析―
- 大学生が対人ストレスと遭遇した際に行う音楽による気分調整と心理的ストレス反応の関係
- e-Learning の文脈における講師キャラクターが受講者の集中力に与える影響 ―処理流暢性の観点からの検討と調査―
- メタバース空間におけるパーソナル・スペースに関する研究



卒業研究について
詳しくはこちら



東北大学教育学部 Q&A



東北大学の教育学部 Q&A について
詳しくはこちら



Q1 東北大学の教育学部と他の大学の教員養成学部とは、どこが違うのですか？

A1 国立大学の教育学部には2種類あって、教員養成を目的とした教育学部と、教育学や心理学の研究・教育を目的とした教育学部があります。東北大学の教育学部は後者のほうです。

Q2 それでは、東北大学の教育学部では教員になれるのですか？

A2 中学校の社会、高等学校の公民の免許状が取れます。
その他にも、他学部の授業を履することで、国語や英語、数学、理科の免許状も取得できます。

Q3 教育学部に行けばカウンセラーになれるのですか？

A3 カウンセラーといっても様々な資格がありますが、教育学部/教育学研究科では「公認心理師」や「臨床心理士」に対応したカリキュラムを提供しています。

公認心理師の受験資格を得るためには、教育学部および文学部で開講される必修科目を履修し、卒業後に臨床心理学コースの修士課程を修了するか、認可を受けた施設で2年間の実務経験を積む必要があります。また臨床心理士の受験資格を得るためには、臨床心理学コースの修士課程を修了することが必要です。いずれの場合も、教育学部で関連分野について幅広く学んだ上で、大学院や実務研修機関でさらに専門的な学びを深めることになります。

Q4 教育学部で学ぶ心理学と、文学部で学ぶ心理学では、どこが違うのですか？

A4 文学部では実験心理学や社会心理学の基礎的問題の解明に取り組んでいます。具体的には「視覚認知心理学」「感情心理」「ストレス、化粧、顔、香りに関する心理学」「地域社会における資源交換」「異文化体験」などが研究されています。

一方、教育学部では、広い意味での「教育」、すなわち、人と人のかかわりに関する心理学が中心です。具体的には、教える、学ぶ、発達する、支援するといった行動やその心理学的実践をテーマとしています。主だった心理学の領域としては、「教育心理学」「学習心理学」「発達心理学」「障害児者心理学」「臨床心理学」などが学べます。

Q5 東北大学の教育学部を卒業すると、何になれるのですか？

A5 もちろん教員を目指す人もいますが、それ以外に企業や教育行政、矯正施設や福祉施設の中で自分の学んだ教育学・心理学を生かす人も大勢います。さらに、東北大学教育学部は、数少ない「大学院大学」の教育学部ですから、さらに高度な専門的能力を身につけるために大学院に進学する人も多くいます。



東北大学
大学院教育学研究科・教育学部

Graduate School of Education / Faculty of Education

〒980-8576 仙台市青葉区川内27番1号

TEL | 022(795)6105

URL | <https://www.sed.tohoku.ac.jp/>